

令和4年度 大田区立出雲中学校学校経営方針

大田区立出雲中学校

校長 岩永 英樹

大田区教育委員会の教育目標を受け、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる人材を育成する。活力にあふれ、これからの時代をたくましく生きる人間の輩出を目指し教育目標および目指す学校像を設定する。

◎ **教育目標** ・知性を高めよう ・情操を豊かにしよう ・健康な人になろう

◎ **キャッチフレーズ** 「挨拶・笑顔・輝く未来」 ～「感じ、考え、伝える」ことを大切に～

◎ **目指す学校像**

(1) 安全・安心な学習環境、挨拶が絶えない明るい学校

(2) 基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を高める学校

(3) 教職員が「ONEチーム」となり、生徒の夢を育み、保護者の願い、地域の期待に応えられ信頼され愛される学校

・子どもにとって

前向きな気持ちで、成長を実感できる学校

・教職員にとって

自己研鑽に励み、出雲中教職員として誇りを実感できる学校

・保護者地域にとって

学校が生徒に寄り添い大切に育てている様子がよくわかり、自分たちも協力して子供たちの成長にかかわっていることを実感できる学校

「おおた教育ビジョン」の視点に基づき教育活動を展開する。

6つのプラン ①未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

②学力の向上【知】

③豊かな心の育成【徳】

④体力の向上と健康の推進【体】

⑤魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

⑥学校・家庭・地域が一体となっても進める教育【学校・家庭・地域】

1 重点目標

- (1) 基本的な生活習慣・規範意識の確立 ～心身を鍛える～
- (2) 基礎的・基本的学力の向上 ～わかる授業の実践 OJT・Off-JTの推進～
- (3) 学習環境の整備 ～落ち着いた環境作り～
- (4) 生徒会活動・学級活動・部活動の活性化 ～自治力の育成・自己肯定感を高める～
- (5) 信頼される学校づくり ～地域への情報発信 地域と連携した活動～
- (6) 心の教育 ～地域や家庭と連携した人権教育～

2 中期的目標と方策

- (1) 安全・安心な環境及び挨拶の絶えない明るい学校
 - ① 全教職員が共同歩調で指導を行い、挨拶を重視し教職員、生徒との信頼関係の向上を図る。
 - ② 生命尊重を基本として、人権感覚を磨くとともに自尊感情を高めるための教育環境整備に努める。
 - ③ 心と体の両面から、生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進める。
- (2) 教科等の指導方法の工夫・改善
 - ① 授業公開・観察等を通して教員の授業評価を行うことで、授業改善に努め、すべての生徒にわかりやすい授業「出雲中学校授業スタンダード」を確立する。
 - ② 生徒参加型の授業形態を取り入れることで、学習効果を高める。
 - ③ 補充・補習教室及び各種検定試験等を通して、生徒に目標と意欲を持たせる。
- (3) 地域の組織と連携した学校運営
 - ① 学校公開、行事等のあらゆる機会を通し、学校教育をオープンにし保護者、地域の参加を増やし、学校に対する理解を深めてもらう。
 - ② 学校支援地域本部（出雲中スマイルサポート）と連携し学習機会の活性化を図る。
 - ③ 教職員、生徒・地域と連携した学校防災拠点訓練を推進する。

3 令和4年度の達成目標と方策

教育課程全体を通して「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」3つの資質能力をバランスよく育成する。

(1) 学力向上にかかわること

- ① 国、都、区の学力調査結果に基づく授業改善推進プランを作成する。生徒・保護者・地域からの授業評価を通して授業力向上を図る。
- ② 授業ごとに本時の評価規準（目標）を板書する。生徒に目標を明示し、分かりやすい授業を展開し、学力の向上に努める。

- ③ 持続可能な社会の創り手として必要とされる能力や態度の育成を目指し、「見る」「体験する」「発表する」の3要素を授業に取り入れ、学習形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を推進し、問題解決能力の育成「思考力」「判断力」「表現力」に努めていく。
- ④ もの作り教育（STEAM教育）等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な学習を推進する。
- ⑤ 校内研修を充実させ、授業研究を年3回実施し、OJTの推進を図る。また、都・区の研修や発表会に参加し自らの資質・能力を高め、自己啓発に繋がるOff-JTも推進する。
- ⑥ 放課後、定期考査前の補習等を充実させる。また、土曜日補習及び長期休業中に補充・補習も計画的に実施し基礎・基本の徹底を図る。そして、学習カルテを活用し、家庭との連携を図り家庭学習の定着を協力要請する。
- ⑦ GIGAスクール構想の実現に向けた取り組みを推進し、全教科でICT機器を積極的に活用し、自ら資料や教材の工夫を通し、授業の幅を広げ授業力を高めていく。
- ⑦ 小中一貫教育の視点に立った学力向上、体力の向上に努める。年3回の小中学校の教員相互の連携を強化して、重点目標の達成に向け取り組んでいく。

(2) 健全育成にかかわること

- ① 教員自らが挨拶を励行し、時間を厳守するなど率先垂範する。学校生活のあらゆる面で生徒を啓発していく。
- ② 生徒に寄り添った指導を基本として、毅然とした態度で全教職員が指導し、善悪の判断を育てるとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、社会のルールから逸脱しない規範意識を養う。また、いじめ、暴力を許さない学校環境づくりを構築し、相手の立場に立って考えられる人権意識を地域や家庭と連携しながら高めていく。
- ③ 「自己を客観的に捉える能力」「多様性を尊重する態度」の育成を基本として道徳授業の充実を図り、規範意識、正義感、自他の生命尊重心を高め、豊かな心の育成を図る。また、生徒の活躍する機会の設定やボランティア活動、地域行事への参加の体験的活動を通し、自己肯定感及び自己有用感をもち、社会に参画する主体性のある生徒の育成を図る。
- ④ 生徒会活動、部活動を活性化させ、心技体の育成とともに、協力、思いやり、礼儀、言葉使い、ルール、マナー等を身につけさせ、好ましい上下関係を築く。
- ⑤ 特別活動や総合的な学習の時間を通して持続可能な開発目標を目指す教育（オリンピック、パラリンピック教育・環境教育・人権教育・平和教育等）を進める。
- ⑥ 学校全体で食育への関心を高めるとともに、5月及び10月に「早起き・朝ごはん」月間で、規則正しい生活習慣の育成や清潔な環境づくりに努め、心と体の健康づくりを推進する。
- ⑦ 6月・11月の子供の心サポート月間のメンタルヘルスチェックを活用し個別面談を実施する。また、適宜、アンケートを実施し二者面談を行い、生徒の悩み等の相談体制の充実を

図り、早期発見・早期対応に努める。

- ⑧ 特別支援教育、不登校対策を推進し、週 1 回、校内委員会で特別支援コーディネーター、登校支援コーディネーターを中心とした生徒の心に寄り添う支援体制の充実を図る。また、SC・SSW を積極的に活用するとともに、関係諸機関や地域支援本部とも連携した体制を構築し、多面的な生徒理解と組織的な教育相談を行い不登校の未然防止、個に応じた支援を行う。
- ⑨ 新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら安全で安心な学びの保障をする。

(3) 地域と連携した学校運営

- ① 学校公開週間を毎学期に設定する。また、土曜公開授業及び道徳公開講座を実施し保護者・地域に公開し、学校、生徒の実態を理解してもらう。
- ② 東日本大震災の教訓を生かし、第 3 学年生徒全員と教職員・地域の関係者も交え、緊急時に備えた地域防災拠点訓練を実施し、防災に対する意識の向上と地域の一員としての自覚を促していく。
- ③ 多様な地域の教育力を生かし「生き方指導」や「キャリア教育」としての進路指導にも生かしていく。職場体験を通して、地域の方々とのつながりや勤労の尊さを理解させる。
また、学校支援地域本部（出雲中スマイルサポート）と連携し、キャリア教育や持続可能な開発目標を目指す教育（SDGs）の取組を充実させる。そして、地域の施設や人材などを活用した体験的な学習を通して、生徒の興味・関心に基づいた課題を解決する能力を身に付けさせる。
- ④ 地域の開催する行事、ボランティア等に積極的に関わり、社会性、協調性やマナー等の育成を推進する。そして、地域との関わりを通して、地域への愛着や誇りを育てていく。
- ⑤ 保護者や地域に情報モラル教育を実施し、現状で抱える様々な課題や問題行動等を一体となり、双方で課題等をともに考え生徒の健全育成に努めていく。
- ⑥ 学校支援地域本部（出雲中スマイルサポート）と連携し、地域の方々や大学生に放課後や土曜日の学習会及び各種検定受験に向けての学習会活動の活性化を図っていく。

(4) 教職員のサービスの厳正と健康管理

- ① 教育公務員公務員として職責を自覚しサービスの厳正に努める。常に公務員は全体の奉仕者であることを念頭に置き、「信用失墜行為」の防止に努める。
- ② サービス事故防止研修を実施しサービス事故の未然防止に努めるとともに、教員相互の意識の向上と互いに声をかけ合い相談できる体制を築く。（人権教育プログラムの活用）
- ③ 心身の健康や悩み事等がある場合の早めの相談体制を強化し、一人で抱え込まずに相談しやすい職場の雰囲気をつくる。
- ④ 働き方改革を含め、週に 1 日は、定時で帰宅できるように推進し、健康管理留意するように努める。